

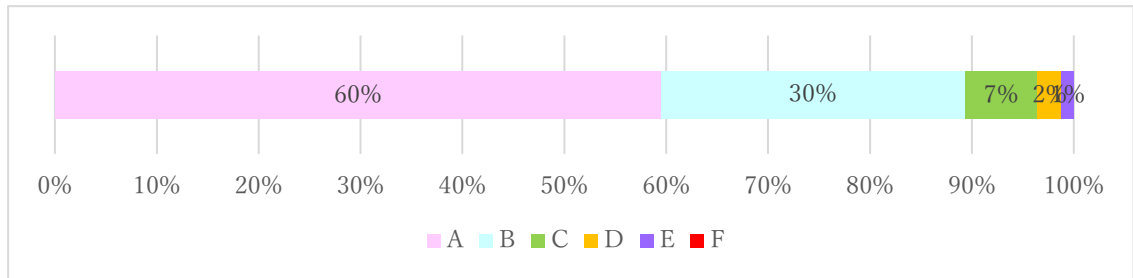
令和7年度 自己評価

どんぐり保育園

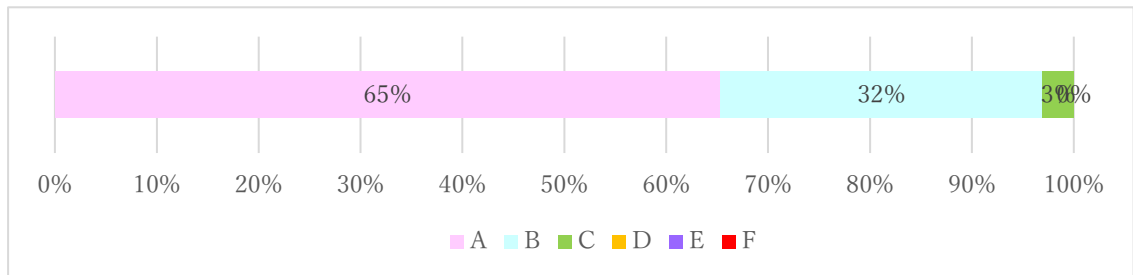
■A できている ■B まあまあできている ■C ふつう ■D あまりできていない
■E ほとんどできていない ■F その他（当てはまるかわからない・意図が不明）

第1章 総則

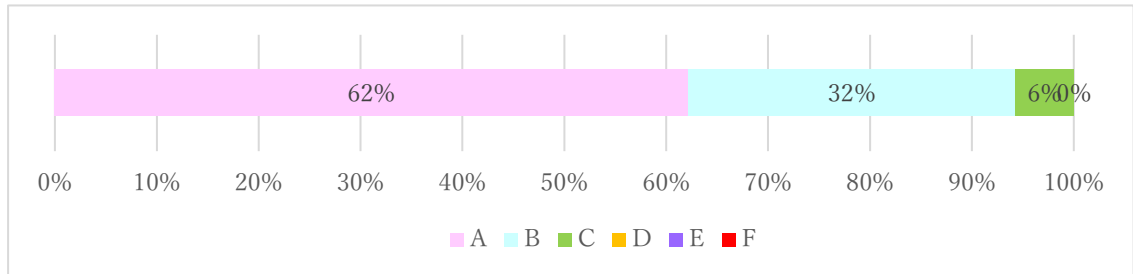
1. 保育所保育に関する基本原則



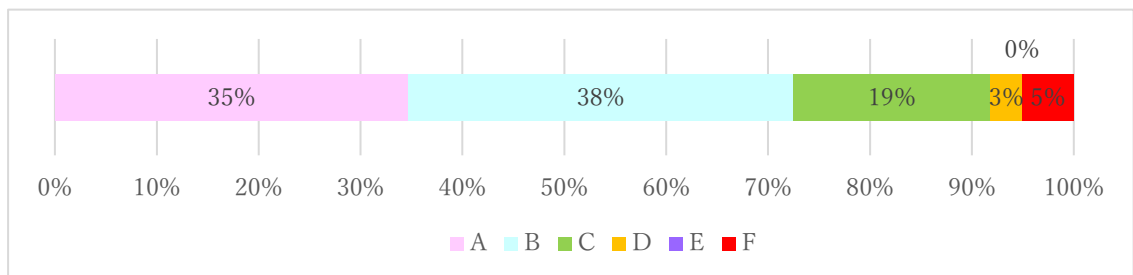
2. 養護に関する基本的事項



3. 教育に関するねらいと内容

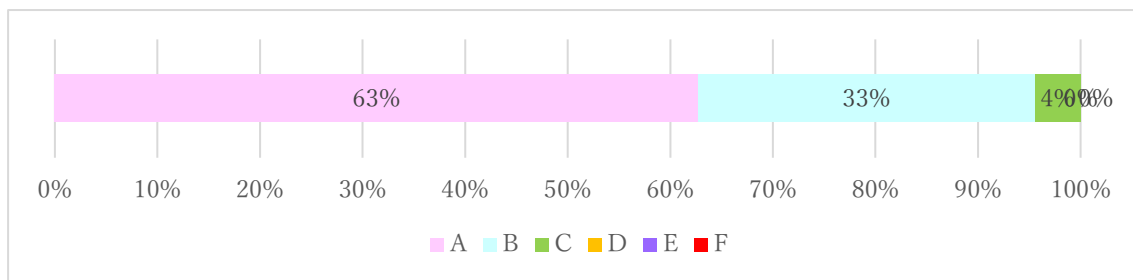


4. 保育の計画及び評価

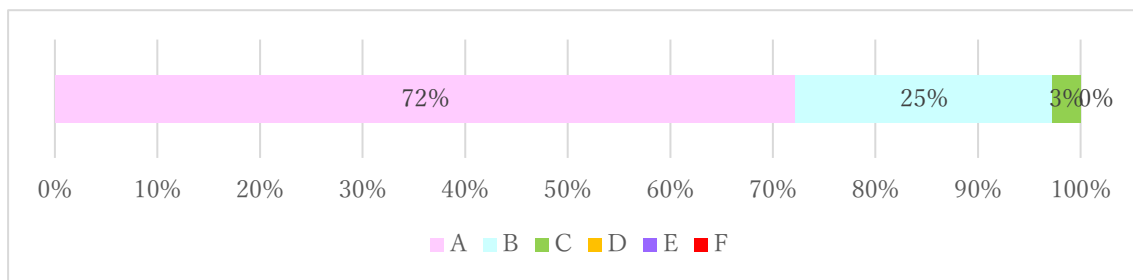


第2章 保育の内容

1. 0～2 歳児

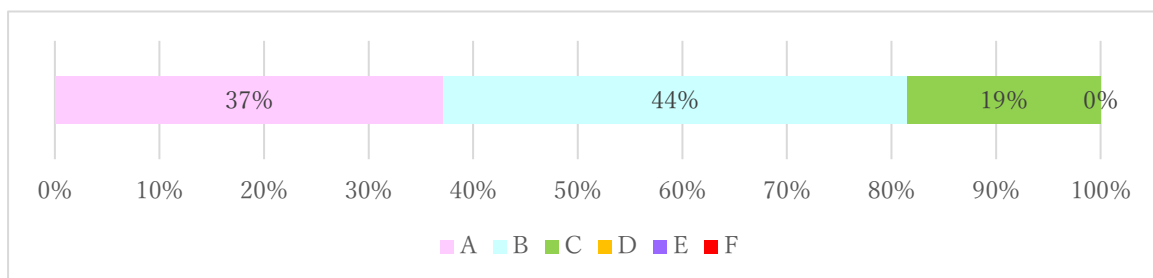


2. 3～5 歳児

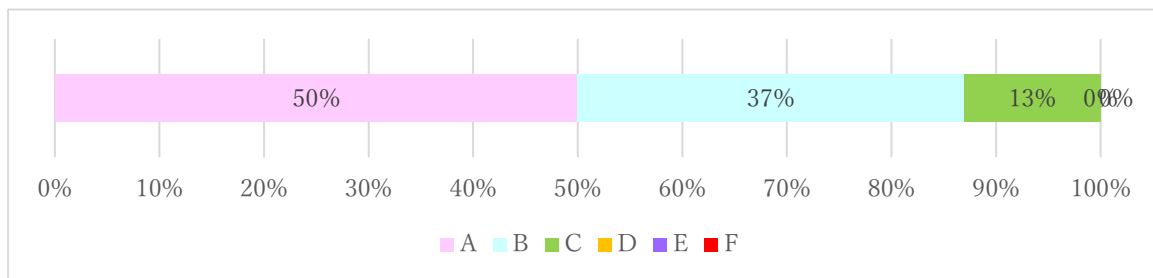


第3章 健康及び安全

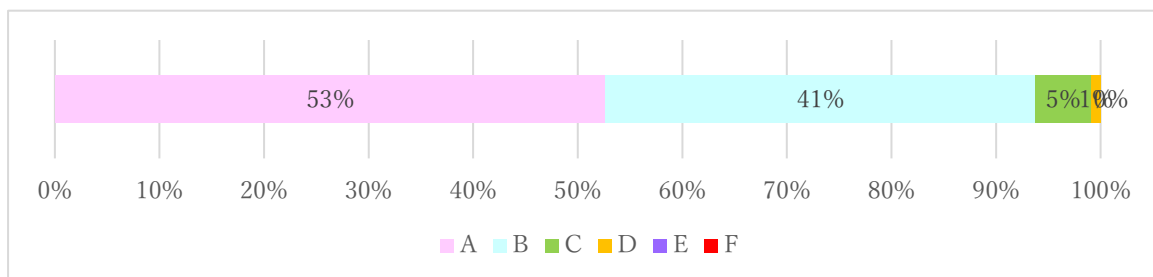
1. 子どもの健康支援



2. 食育の推進

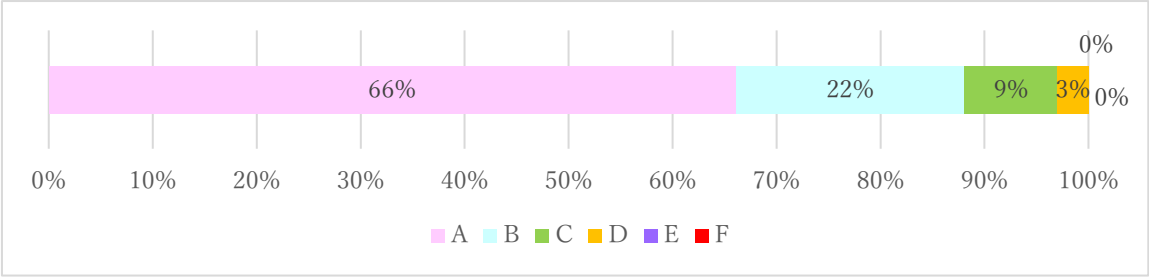


3. 環境及び衛生管理並びに安全管理

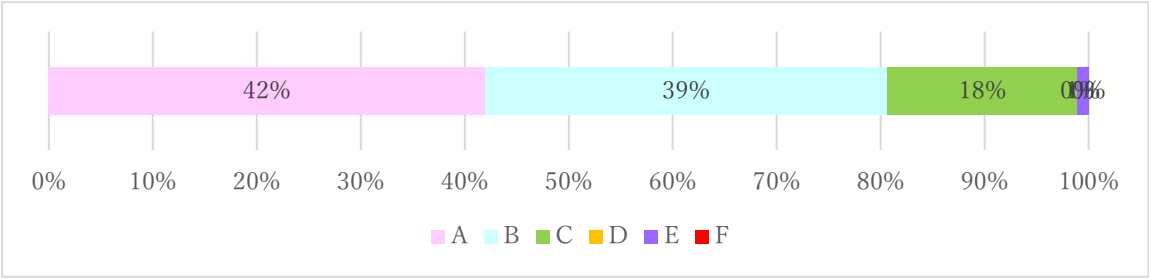


第 4 章 子育て支援

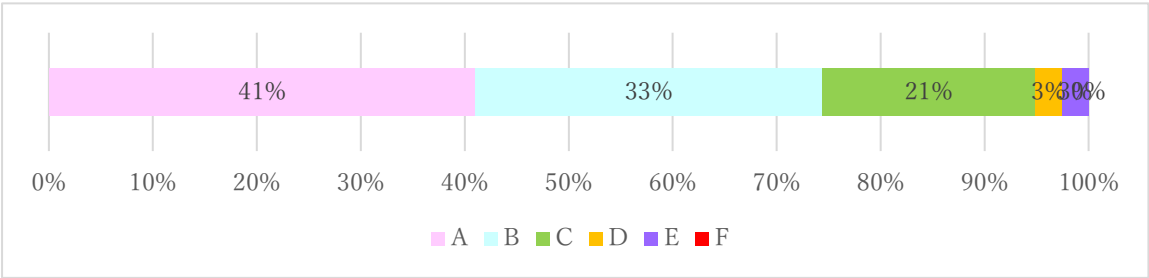
1. 保育所における子育て支援に関する基本的事項



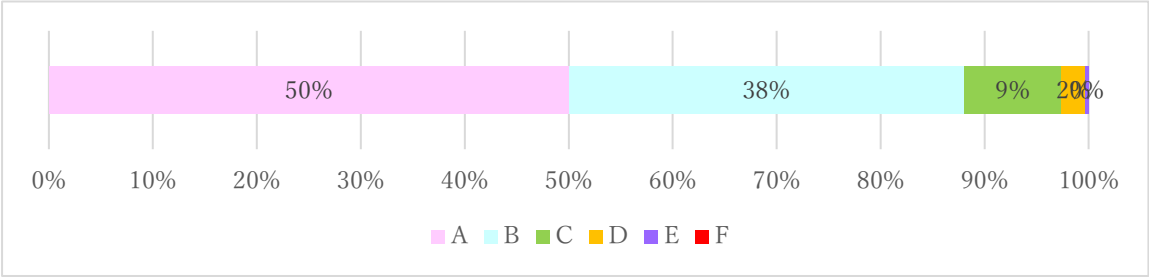
2. 地域の自然、人々との関わり



3. 地域の保護者等に対する子育て支援



第 5 章 職員の資質向上



※各項目の内容について

第1章 総則

1. 保育所保育に関する基本原則

- (1) 保育園は入所している子どもの最善の利益を考慮し、心身ともに健やかに育てる責任があることを理解している
- (2) 子ども一人一人の人格を尊重した保育を行うとともに、保育士自らの人間性や専門性の向上に努め、豊かな感性と愛情を持って保育している
- (3) 乳幼児期は生涯にわたる「生きる力」の基礎が培われる時期であることを理解して保育を実践している
- (4) 子どもの発達の特長や「発達過程」を理解し、発達の連続性に配慮して保育をしている
- (5) 養護とは、子どもの生命の保持及び情緒の安定を図るために保育士が行う援助や関りのことであり、教育は子どもが健やかに成長し、その活動が豊かに展開されるための発達の援助であることを理解している
- (6) 子どもの成長や保育について学ぶ為、保育所保育指針を読む機会を作っている

2. 養護に関する基本的事項

- (1) 子どもとの温かなやり取りやスキンシップを常に心がけている
- (2) 保育士等の温かい受容的な雰囲気や関わりが子どもの自信や自己肯定感を育むことを理解して保育している
- (3) 子どもを褒めたり励ましたり、意欲を持たせるような言葉掛けをしている
- (4) 「早くしなさい！」など、せかす言葉を不必要に使わないで、一人ひとりの発達過程に合わせた対応を心掛けている
- (5) 「だめ！」「いけません！」など、制止する言葉を不必要に用いないようにしていますか
- (6) 子どもの話をよく聞いたり、言葉にならない思いやサイン、その姿の中にある心の動きを推察し、基本的欲求が十分満たされるよう配慮している
- (7) 不自然な表情や傷、衣服汚れなどに気づき、虐待を受けていると疑われる子どもの早期発見に努めている

3. 教育に関するねらいと内容

- (1) 散歩や園庭など戸外で遊ぶ機会を多く取り入れている
- (2) 保育士が率先して身体を動かすなど、子どもがその楽しさを体験できるよう配慮している
- (3) 子どもが見通しをもって意欲的に行動できるよう、安全についての心構えや約束を日ごろから話している
- (4) つまづきや葛藤、けんかななどを子どもの育ち（発達）に欠かせないものとして捉え、対処している
- (5) 保育士は子どもにとって最も身近な人的環境であるとともに、保育士のすべての言動が子どもにとってのモデルになっていることを常に意識している
- (6) 子どもにとって危険な場所、危険な遊びがわかり、安全に気を付けて行動できるような声掛けをしている
- (7) 身近な自然事象に触れ、「どうして？」「なぜ？」といった疑問に対して一緒に調べたり考えたりしている
- (8) 信頼出来る相手に「伝えたい」「わかってもらいたい」という気持ちが発語を促すことを理解し、子どもの表情や姿をよく観察し、その場に適した言葉掛けをしている
- (9) 子どもがわからないことを尋ねたり、楽しい経験を話す時に、安心して話せる雰囲気を作っている。

- (10) 子どもが絵本や物語の内容と自分の経験を結び付けたり、想像を巡らせられるよう、読み方を工夫している

4.保育の計画及び評価

- (1) 園の保育理念、保育方針を理解し共感している
- (2) 園の方針、考え方について保護者に丁寧に説明することが出来る
- (3) 園の指導計画は、社会状況や子どもの実態、地域性などを考慮しながら、必要に応じて見直しを行っている
- (4) 指導計画は子どもの興味や関心、これまでの生活や予想されるこれからの生活などを考慮し、作成している
- (5) 行事は、子どもの生活上の意義を十分検討した上で指導計画に組み入れている
- (6) 指導計画は立てるだけでなく、事前に確認したり、見直しを行っている
- (7) あなたの指導計画の反省・評価は、次の指導計画作成に反映できるものとなっていますか？

第2章 保育の内容

1.0～2 歳児

- (1) 子どもの声をよく聞いたり、言葉にならない思いやサイン、その姿の中にある心の動きを推察して受け止め、信頼関係を築いている
- (2) 乳幼児期は身体的条件や生育環境などの違いにより、一人ひとり心身の発達に個人差が大きいことを理解し関わっている
- (3) 保護者から健康状態などの申し出を受けるなど、子どもの健康情報を共有し、既往症について把握している
- (4) 体重、身長などの測定を定期的に行い、家庭に知らせるとともに、バランスの取れた発育が促されるように配慮している
- (5) 離乳食に関する知識を深め、家庭と連携を取りながら一人ひとりに合わせて移行を行い、子どもの食への意欲を育てている。(0 歳児)
- (6) 睡眠が十分にとれるような静かな環境を整え、午睡の状態及び SIDS のチェックを記録している
- (7) 落ち着いた雰囲気の中、抱いたり語り掛けたりして、子どもが人とのかかわりの楽しさや心地よさを味わえるようにする
- (8) しぐさや声や動きを介して発する欲求を察知し、タイミングよく応答的なかかわりをしている
- (9) 自分を表現する力が十分ではない子どもの気持ちを汲み取り、安心感と自己肯定感が持てるような言葉掛けをしている

1.3～5 歳児

- (1) 子どもの話をよく聞いたり、言葉にならない思いやサイン、その中にある心の動きを推察し、基本的欲求が十分満たされるよう配慮している
- (2) 一人の子どもをじっくりと見ながら、見えない所で活動したり、遊んでいる子どもについてもある程度その活動の様子を推察することが出来る
- (3) 一人のひとりの子どもの発達の姿や課題についての見通しを理解している
- (4) 一人ひとりを観察し、ありのままの姿を受け入れ、認めるようにしている
- (5) 子どもとの温かなやり取りやスキンシップを常に心がけている
- (6) "一人ひとり"と"みんな"の関係を考え、個と集団における配慮をしている
- (7) 子どもを褒めたり、励ましたり、意欲を持たせるような言葉掛けをしている

- (8) 子どもの家庭環境やこれまでの成育歴などを考慮して関わっている
- (9) 支援を必要とする子が入園した時、個別対応をしたり、クラスの子どもとともに育ちあえる保育を積極的に進めるようにと考えている

第3章 健康及び安全

1.子どもの健康支援

- (1) 朝の健康観察を丁寧に行ったり、一人ひとりの平常の健康状態や発育及び発達状態を的確に把握している
- (2) 体調が悪そうなときや万が一、事故が起きた場合には適切な処置が行えるよう、専門知識を深める努力をしている
- (3) 子どもの疾病等の事態に備え、救急用の薬、材料等を適切な管理の下に常備している。また、それを把握し、スムーズに対応できるようにしている
- (4) 子どもが活動しやすいようにその都度、保育室の換気や温度湿度に配慮している
- (5) お休みの目安や出席停止となる病気について保護者に伝えることが出来る

2.食育の推進

- (1) 食育の計画に基づいて、食育に関する取り組みを実施している
- (2) 楽しい雰囲気です食事ができるようにし、保育士が食事のマナーや姿勢、好き嫌いなど、子どもから真似される大人であることを意識し、気を付けている
- (3) メニューや食材について説明できるようにし、子どもたちが食に対して興味が持てるようにしている
- (4) 調理する人への感謝の気持ちが育つように、子どもと調理員等との関りや、食堂などの食に関わる保育環境に配慮している
- (5) 生活と遊びを通して、子どもが自ら意欲を持って食に関わる体験を積み重ねることを重視して取り組んでいる
- (6) 食物アレルギーの子どもに対して、家庭と連携しながら除去食などの配慮をしている。また、誤飲の防止について職員が共通理解している。

3.環境及び衛生管理並びに安全管理

- (1) 常に清潔な環境を保つことが出来るよう、日頃から整理整頓や掃除、消毒等を行っている
- (2) 保育中の事故の発生に備え、施設内外の危険個所の点検を理解し、実施している
- (3) ヒヤリハットを意識し、周知ができるよう記入を行っている。また、他の保育士の書いたものについても定期的に確認し、どのような事故が起きるのか予測したり、けがや事故を起こしやすい子について把握している
- (4) 園の遊具や教材について、その特徴や基本的な使い方を知っている
- (5) 園の遊具や教材について、どんな使い方をするのか、どのような使い方が危険か予測できる
- (6) 楽しい雰囲気の中で安定して遊び込めるように遊具や用具の素材や質、数量を配慮して環境構成をしている
- (7) 子どもの活動がより豊かになるように子どもの発想を柔軟に取り入れ、活動の展開に応じて環境の構成をしている
- (8) 子どもの発達や生活を見通し、季節の変化に応じた環境構成をしている

第4章 子育て支援

1.保育所における子育て支援に関する基本的事項

- (1) 保護者の受容、自己決定の尊重、プライバシーの保護や守秘義務を基本的姿勢として保護者

と接している

- (2) 保護者が子どもの成長に気づき、子育ての喜びを感じられるように努めている
- (3) 一人ひとりの子どもについて、家庭の養育方針などを把握している
- (4) 送迎の際に保護者と言葉を交わすように意識している
- (5) 子育てと就労を支える為に、保護者の気持ちに配慮しながら接するよう努めている
- (6) 保護者からのさまざまな訴え、要望、意見については安易に受けたり、断ったりしないで園長や先輩等に報告や相談をしている
- (7) 必要な場合は自園の苦情解決システムについて保護者に説明できる
- (8) 個人情報については適切に管理し、園長の許可なく使用、開示、漏洩していない
- (9) 個人情報について新たに知りえたことについては、直ちに園長に報告している
- (10) 正しい日本語、丁寧な言葉遣いと敬語を用いて話しかけ、相手の話もしっかりと聞いている
- (11) 電話では簡潔に要領よく対話することを心掛けている
- (12) 保護者からクレームがあった場合は、まず謙虚にその内容を聞き、園長に連絡、報告、相談をしている

2.地域の自然、人々との関り

- (1) 地域の人々と親しく挨拶や会話を交わしている
- (2) 地域の自然や機関を指導計画の中で位置づけて活用している
- (3) 実習生を受け入れるときは、意義や方針を理解し、指導的立場で接している
- (4) 中高生の保育体験、ボランティアを受け入れるときは、その目的や意義を理解、確認している
- (5) 園の保育内容が小学校への準備としてつながることを理解している
- (6) 卒業した子どもの情報を得るように努めている（2年目以降の経験保育者）
- (7) 小学校が、園での子どもの育ち等について、どのような情報を必要としているか理解するよう努めている

3.地域の保護者等に対する子育て支援

- (1) 地域開放（園庭開放やプログラム、行事など）について理解の上取り組んでいる
- (2) 保護者などから問い合わせがあった場合に、自園または地域の子育て事業に関する情報について説明できる
- (3) 親しみやすい雰囲気を中心掛け、利用者に積極的に声を掛けている

第5章 職員の資質向上

- (1) 保育に携わっているものとして、専門知識や技能を身につけている
- (2) 保護者に対し、子どものことをわかりやすく話すことが出来、保護者との信頼関係を作ることにも努めている
- (3) 自分の保育についての課題を具体的に見つけようと努め、教材研究など指導技術向上のための自己研鑽をしている
- (4) 園内外における研修及び自己研鑽により専門性を高める努力をしている
- (5) 保育者並びに他職員の手順を考え、能率よく仕事を行っている
- (6) 自分の仕事を行ったうえで、自ら進んで他の人や園全体の仕事を積極的に支援している
- (7) 保育者の人間性が子どもたちに影響を与えることを自覚している
- (8) 創意と工夫を惜しまず、喜びや意欲を持って保育をしている
- (9) 大人の都合で子どもの訴えを後回しにすることなく、適切に対応している
- (10) 子どもや保護者との対応には、公平さを欠かさないようにしている

- (11) 服装、髪型、身だしなみなど、清潔感のあるものを心掛け、安全性にも気を付けている
- (12) 教材、教具の管理、点検、園内外の清掃や整理整頓を実行している
- (13) 締め切りのある仕事や提出物の締め切り日、会議や打ち合わせの時間をきちんと守っている
- (14) 他の人の意見を素直な気持ちで聞いたり、自分の意見をしっかりと述べる事が出来る
- (15) 職員会議・保育会議では、自分の考えを発信している
- (16) 子どものこと、クラスの出来事などで必要なことは園長や主任、先輩に報告、連絡、相談している
- (17) その日あった出来事や気になる子どもの様子などをその子どもに関わるほかの職員と共有していますか？
- (18) 保育者全員が情報を共有し、クラスに関係なくその場にいる保育者が適切な言葉掛けや対応をしている
- (19) 保育に関する情報を日ごろから得ようとしている
- (20) 運営の流れ、入所手続きなど、保育所の制度を理解している
- (21) リズム遊びなどのどんぐりの保育の基礎となる部分について理解しており、適切な説明が出来る
- (22) リズム遊びを習得できるよう努力している